

# 自己評価結果公表シート

2021年度

明星小学校

## 1. 学校の教育目標

明星小学校では、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を受け継ぎながら、3年、6年、9年後の姿を想像し、今、何をすべきか考えながら教育に取り組んでいる。2018年度からの3年間で、「教育の明星」としての小学校のブランド化の一步を図ることができた。2021年度は、次の3年への第一歩の年となるが、『賢さと豊かさを兼ね備えた、輝きをもった子どもの育成』をテーマに更に飛躍していきたい。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

### (1) 教育力向上

- ① これからの社会に必要なグローバル力を育む「英語力」と「理数力」を重視した教育
- ② これからの社会に必要なグローバル力を育む「先進的プログラミング教育」
- ③ 深い学びと豊かな心を育む五感を通して感動を体験する「探究」教育
- ④ 児童一人ひとりの資質・能力を育てる高い授業力の育成

### (2) 一貫教育の推進

- ① 子どもの力を最大限に伸ばす一貫教育の確立
- ③ 特色ある「明星ブランド」を創る
- ④ 内部進学者の確保

### (3) 広報活動の強化と入学者確保

- ① 定員増につながる広報活動の充実
- ② 「教育の明星」をブランド化する広報戦略、政策を IR センターとの連携

### (4) 働き方改革の推進

- ① 「楽しい」と思える職場の確立
- ② 仕事内容の効率化
- ③ 働きやすい環境・制度の確立

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1)教育力向上 ○「英語力」と「理数力」を重視した教育 ・卒業時英検 85%以上	A	・保護者満足度アンケートの結果からみて、「英語力」「理数力」「プログラミング教育」の強化に関して、重視度、満足度も特に高い数値を示している。特に、「プログラミング教育」の充実について満足度が上昇した。

<p>保持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業研究会で発信</li> <li>・低学年理科</li> </ul> <p>○「先進的プログラミング教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベネッセ、ソニー、明星大学情報学部との連携</li> </ul> <p>○感動を体験する深い学びと豊かな心を育む「探究」教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的好奇心や自ら考え行動する力を育む「探究」カリキュラム</li> </ul> <p>○質の高い教育力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究会の充実と公開授業研究会の外部発信</li> <li>・IRセンターとの連携</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・C R T（教研式教育検査）の結果は、国語に関しては第5学年を除いて、算数に関しては全学年全国平均より上回っている。特に、算数はどの学年も大きく上回っている。</li> <li>・卒業時英検保持率90%以上で、目標値85%を上回ることができた。</li> <li>・「先進的なプログラミング教育」に関しては、コロナ禍で十分な活動を行うことができなかったが、ZoomやGoogleクラスルーム等を活用して遠隔授業で対応することができたためか、前年度より満足度が上昇した。</li> <li>・体験教育に関しては、コロナ禍で満足度は重視度のわりに低かったが、昨年度比較と同じ結果となった。宿泊行事を含み多くの行事が中止となってしまったが、感染対策を踏まえつつ体験を取り入れた授業を組むことができた。また、中止となった行事に代わって、児童会が主体となり明星祭、スポーツウィーク、卒業を祝う会等、手作りの会を行うことができた。</li> <li>・授業力向上に関しては、算数科に焦点を当て、校内研究会11回（内授業研究会7回）を実施、各回外部講師を招き、授業づくりの在り方について研究、その成果を共有できた。特に、2月5日のZoomでの明星講演会の発信は北は北海道帯広から南は沖縄まで250名を超える全国からの参加者を得ることができた。また、算数校内研究会の充実により、算数に限らずに教師の授業力及び児童の学力のアップが見られた。</li> <li>・コロナ禍においても外部向け研究会（第22回明星算数講座）では、学生も含め約200名の参加者が得られ、本校の特色を外部へ広く発信できた。</li> <li>・東京都私学財団の研究助成金を得て、（1）算数科における探究、（2）SDGs,STEAM教育と結び付けた探究、をテーマに研究助成を受け、成果をまとめて発信した。</li> </ul>
<p>(2) 一貫教育の推進</p> <p>○連携を深める一貫教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小連携カリキュラム</li> <li>・小中連携カリキュラム</li> </ul> <p>○特色ある「明星ブランド」を創る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明星小独自の取り組み</li> </ul> <p>○内部進学確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園から35%以上(35名以上)、</li> <li>・中学校へは70%以上(53名以上)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であり、生徒・児童・園児間の幼小中高の交流を図ることはなかなかできなかったが、教師間の交流（幼稚園補佐の兼任、中高教員による、英語、理科授業、小教員による中での数学の授業）で連携を図ることができた。</li> <li>・明星幼稚園からの内部進学率は、昨年より減少したが例年と同じぐらいの割合を得ることができた。</li> <li>・明星中学校への内部進学率は、昨年よりやや減少した。</li> <li>・特色ある「明星ブランド」として、「チーム学校力」「教師力」をことあるごとに発信し、幼稚園、保育園、塾等で高評価を得られた。</li> </ul>

<p>(3) 広報活動の強化と入学者確保</p> <p>○入学者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願者 200 名以上、</li> <li>・入学者 100 名以上</li> </ul> <p>○IRセンターとの連携した広報戦略</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的・効果的な広報活動の成果で、認知度、評判等も向上している。</li> <li>・IRセンターと協力しながら、保護者アンケートの結果等を機会あるごとにフィードバックし、円滑な学校運営を図ることができた。</li> <li>・広報戦略面でも IR センターと協力し、特色をコンパクトに伝えることができる学校紹介パンフレットを作製した。</li> </ul>
<p>(4) 働き方改革の推進</p> <p>○変形労働制へ準備</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度からの変形労働制導入を視野に入れ、ワーキンググループを作り、プレで実施してみて 2023 年度からの本格導入を行う上での 2022 年度の問題点を明らかにすることができた。</li> </ul>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の変容、授業中での様子、保護者満足度アンケート、C R Tの結果、広報活動の成果等から、昨年度よりさらに一段チーム学校力に向上が見られ、特色ある「明星ブランド」教育の姿が見られるようになった。</li> <li>・入学状況からも、「他私学との併願校」が「ら国立附属との併願校」へと本校の位置づけの変化が見られた。</li> <li>・コロナ禍を、これからの教育で何を大切にしていけばよいか、どのように取り組んでいけばよいかの検討とその準備期間として活用でき、2021 年度に向けての方向性と課題及びはきめの一歩を踏み出すことができた。</li> </ul>

#### ◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
<p>・授業力の向上を図るとともに、「明星ブランド」を創り、浸透させていくこと</p>	<p>・「賢さ」と「豊かさ」をテーマに、「英語、理数、先進的プログラミング教育」とともに「探究」を一つの柱として、またもう一つの柱として、「体験、心の教育」を挙げ、明星の教育の特色としてブランド化していく。</p>

	<p>・「探究」をキーワードに、SDGs,STEAM 教育と結び付けながら、幼小、小中の連携を図り、一貫教育の推進をより強く図っていく。</p> <p>・研究を通して、教師の授業力を一つのブランドとして培っていきながら、その成果を外部に発信していく</p> <p>・教師の授業力の差に関しては、アセスをもとに個々に応じて面談、指導したり、学年でチームを組んで取り組んだりして授業力の向上を図っていく。</p> <p>・一貫教育を推進し、カリキュラムを見直し、特色あるカリキュラムの開発する。</p> <p>・「算数」の重点研究に力を入れ、その成果を算数授業研究会として 2023 年 2 月 4 日（土）に開催し、外部へ発信していく。</p>
<p>・入学者、進学者の確保の安定化、明星幼稚園からの志願者増を図ること</p>	<p>・広報活動を更に充実させ、特色を発信しながら更なる増（志願者数、進学者数、それぞれ 1 割増）を図る。</p> <p>・幼小連携担当、小中連携担当を中心に入学者、進学者、それぞれ 1 割増を目指す。また、明星幼稚園からの入学者増を図るため、小学校教員から副園長として出向する教員と連携を図りながら、明星幼稚園との幼小一貫教育の充実を図っていく。</p>
<p>・働き方改革を推進していくこと</p>	<p>・今まで伝統的に行われてきた行事や慣習の意義やねらいを再度見つけ直し、その精選や企画・運営の工夫を図る。また、児童がより豊かに成長していくために、AI の活用や授業の工夫を図っていく。</p> <p>・実験的に変形労働性を取り入れ、仕事内容の効率化を図りながら、働きやすい環境を整備していく。</p>

#### ※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。